

朝日町五十周年記念誌

朝日

ASAHI TOWN 50th ANNIVERSARY



朝日町50周年記念誌

【発行日】 2004年10月1日
【発行】 朝日町役場
〒510-8522 三重県三重郡朝日町大字小向893
TEL (0593) 77-5651
【編集】 朝日町役場 産業振興課
TEL (0593) 77-5658 FAX (0593) 77-4543
【印刷】 齋きょうせい
〒460-0002 名古屋市中区丸の内2丁目6番19号
TEL (052) 231-0331

朝日町五十周年記念誌

朝日町50周年記念誌

50
年のあゆみ

— ASAHI TOWN 50th ANNIVERSARY —





朝日町町制50周年記念誌の発刊にあたって

朝日町長
田代 兼二郎

昭和29年10月17日に朝日町が誕生して以来、今年で50年という記念すべき年を迎えましたことに、この上もない喜びを感じます。

また緑豊かなこの町は、なおも現在‘住みよさ’においては全国的にも決して引けをとらない町であることを誇りに思います。

これは幾多の先輩方並びに関係各位の並々ならぬご尽力の賜であると感謝いたします。

昭和29年町制施行当時の広報で、初代町長・安達誠三氏の「朝日町の発足に際して」と題したごあいさつの中には、当時の自治体が直面する二つの大きな問題が取り上げられています。

一つは町村合併問題であり、もう一つは国の緊縮予算と税制改革についてです。

合併問題に関しては、「五十年百年先を想定した検討を行い、町民の福祉を増進させることを根本原則として善処する。」とあり、財政問題については、「朝日町は特に自らの力を顧みて身分相応の財政計画を樹立し・・・。」と述べられています。

ここに《温故知新》という諺を思いおこさせます。

まさに、現在の朝日町が直面する苦境を乗り越える源は、ほかでもなく先輩方の姿にあり、歴史そのものにあるのではないのでしょうか。

今後におきましても、この《温故知新》のころをもって、町民一丸となつてのまちづくりに、あらためてご賛同をお願いする次第でございます。

よって、この50周年を契機に朝日町の歴史を振り返り、今後の更なる発展の礎となることを願い、記念事業の一つとして『観る記念誌』を発刊させていただきました。町政に対する理解や関心をより一層深めていただく資となれば幸いです。

末筆ながら、本誌を編纂するにあたり貴重な資料をお寄せいただきました方々はもとより、ご協力いただきました各方面の方々には、心から謝意を表する次第でございます。



- 4 町長あいさつ
- 5 目次
- 6 朝日町への想いを聞く
- 10 あさひいきいきプラン
- 11 今と昔
- 18 統計で見る朝日町
- 19 町の変遷
- 33 歴史—弥生から現代
- 38 町のシンボル
- 39 編集後記





水谷優斗くん 朝日小学校6年生

朝日町の好きなところは、挨拶をしたら、ほとんどの人が挨拶を返してくれるところです。また、朝日町の好きな場所は、本が好きなので「あさひライブラリー」です。今は那須正幹（なすまさとも）さんが書いている「ズッコケ三人組シリーズ」が好きで、よく読んでいます。ちょうど僕と同じくらいの三人組が、事件を探ったり、冒険をしたり、ちょっと勇気のあることをするお話で、ほんとおもしろい。

朝日町にあったらいいと思うものは、コンビニです。コンビニがあったら、お正月など、スーパーがやっていないときでもお買い物ができるし、ちょっとお買物を頼まれたときでも、すぐに行けるから、あったらいいなあ。お買い物はよく頼まれて、手伝っています。

この前、学校の先生が朝日町の合併について話してくれました。僕たちは参加できなかったけど、住民投票があって、少しの差で合併しないことに決まったのは知っています。でも、どうして合併した方がいいと考える人がいるのか不思議だなあ。やっぱり、僕は合併しない方がいいと思う。だって、朝日町はいい町だし、今のままでいてほしいと思います。



伊藤浩さん 大工

昔の思い出として一番に頭に浮かぶのは、今はなくなってしまいましたが、埋蔵地区から柿地区につづく堤防の道沿いにあった桜並木です。私は保育園から小学校6年生までの間、その並木道を通学していましたが、満開の時期は本当に素晴らしかった。その道は町内の主要道路ですから、整備が必要だったし、管理費とか維持費もかかったのでしょう。それでも、桜がなくなると聞いたときには、どうして切ってしまうんだと思ったものです。

ただ、町全体を見てみると、他の地域に比べてそれほど大きく町並みは変わっていないと感じます。朝日町の皆さんは穏やかで、ここは本当に平和でいい町なんです。それは行政を含めた住民の一人ひとりが平和を望み、それに努力してきた結果だと思う。その反面、町を挙げて何かに取り組むにはちょうどいい規模にもかかわらず、思い切って何かをやるという意識が、自分も含めて少し足りない。

やはり、人と人のつながり、それは薄くなってきたと感じます。昔は各地区ごとに青年団がありました。私も青年団に入っていて、お祭りや盆踊りなどを通じて地域の人たちと触れ合うなかで、だんだん自治会としてまとまり、活気が生まれてきたと思う。それが今は、地域の人たちとふれあう機会が少なくなってしまいました。

今は能力を発揮する場がないので、能力のある人が埋もれてしまっているように感じます。本来なら、私たち40歳代が、高齢者と若者をつなぐ役割をして、地域の活性化にもっと積極的になるべきなのかもしれません。行政が私たちの背中を押してくれるとうれしいですね。能力を発揮できる糸口というか、きっかけがあると、私たちを含めて町の活性化に向けて動く人たちはたくさんいると思います。

朝日町への

町民のみなさんに、朝日町の歴史、将来への夢、

想いを聞く

魅力ある町づくりについて聞いてみました。



諏訪翔大くん 朝日中学校3年生

朝日町は、山が多くて自然が豊かなところが好きです。小さい頃には、家の近くにある天神山に登ってよく遊びました。天神山には5分くらいで頂上まで登ることができて、頂上にある公園は、今よりも広く、遊具もたくさんあったので楽しかったです。もう天神山に登ることはあまりありませんが、自然を見たり感じたりすることは今も大好きです。

朝日町にあったらいいと思うものは、映画館です。今は桑名まで見に行っていますが、町内に映画館があったらすぐにいけるから、あるといいですね。

朝日町には親切な人が多いと思います。行事のときには、いろいろな方が手伝ってくれます。ただ、小学生までは子ども会があるので、地域の繋がりはけっこうあったのですが、中学生になると子ども会はなくなるので、地域の繋がりはなくなってしまいます。僕自身は学校に友達がいるので、とくに不満はありませんが。

50年後の朝日町は、今よりももっと山が削られて住宅が建っているんじゃないかな。僕はそういうふうになってほしくないし、ずっとこのままの朝日町であってほしいですね。

でも、僕自身は将来朝日町とは別の場所に住んでいると思う。なんとなく、他の場所を見てみたいというか、そんな気持ちがあります。



栗田敦子さん 小学校教諭

子どもの頃は、天神山の頂上にあった遊具で遊ぶのが好きでよく登りましたが、今は当時の面影はなくなってしまって、少し残念です。

町が行う行事のなかで、サマーフェスタASAHIは、みなさん楽しみにしているのではないのでしょうか。地元の人たちだけでなく、帰省された方も一緒に集まって夕涼みができるのは、すごくいいことだと思います。各地区毎にお祭りはあっても、なかなか足を運べないので、サマーフェスタASAHIのように町として一本化されているイベントは楽しみです。一方、不満な点は行事が重なりすぎるところです。せっかく良い行事があるのに、重なっているために行けないことがよくあって、もったいなく感じます。

朝日町は歴史がある町で、裏山には歴史的な碑がたくさんあるし、東海道も大切な財産です。私が好きだった天神山の近くには梅林香苑もあります。近隣の県からも訪れるほど、町の隠れた観光スポットになっているのではないのでしょうか。そういう歴史や自然は町の魅力だから、これからは残していくとともに、子どもたちに伝えていきたいですね。

ただ、子どもたちが安心して遊べる場所がどんどん少なくなってきているように感じます。もっと安心して遊べる公園があるとうれしい。子どもたちが部屋の中で閉じこもって遊ぶのは、遊ぶ場所がないというもひとつの理由だと思います。子どもたちが「わーっ」と歓声をあげている場面にあまり出会ったことがないので、もっともっと子どもたちの声が聞こえてきてくる町になってほしいですね。



それぞれの感じ方を共有することで、

朝日町の将来の姿が見えてきた。



荒木大介さん 大学生

地区対抗のソフトボール大会は楽しかった思い出です。ソフトボールそのものよりも、同じ地区内には同世代の友人がたくさんいたので、わいわいがやがや一緒に騒いだことが楽しかった。昔は今よりも地域に繋がりがあったように思います。経費節減のためか、地域の人たちが交流する場がどんどん少なくなっていきのはさみしいですね。夏まつりとかマラソン大会、郡体などの行事があってこそ、みんなが一体となれるような気がします。最近のお気に入りの場所は「あさひライブラリー」です。暑いときに学校の宿題やテスト勉強をやるにはもってこいのところ。夏になると、結構、学生がたくさん勉強しにきていますよ。朝日町はのどかで住みやすく、また、思いやりのある人が多い町だと思います。知らない人が挨拶の声をかけてくれることもよくあります。僕は朝日町が大好きだし、「自分の町」という意識が強くあります。

今後、高齢化が進むにつれて、朝日町の高齢者も増えていくでしょう。今以上に高齢者が住みやすい町になってほしいというのが僕の希望です。50年後には僕は70歳になります。そのときまで、ずっと朝日町に住んでいたいし、今のようなのどかで住みやすい町であってほしいですね。



稲垣節子さん アイリス朝日会長

これまでの人生の中で、思い出深いことはたくさんあります。伊勢湾台風のときには、婦人会として炊き出しに奔走して、地域のネットワークづくりは大切だなと痛感したことを憶えています。昔は婦人会や青年団があって、それらがまちづくりに非常に役立っていました。

それと、朝日小学校の円形校舎は、現在、使い勝手が悪いという意見も聞きますが、建設当時は日本一有名な校舎だったんですよ。全国各地からたくさんのお見学者が訪れ、先生方もそれを誇りに思っていました。

また、朝日町の歴史を語るときに東芝を抜きにして語ることはできません。農村地帯だった朝日町が東芝と調和して発展したことは、忘れてはいけません。

朝日町には多くの文化人が生まれ育っています。それは文化を育てる土壌があったからです。そうした歴史を子どもたちに伝えていきたいし、また、みんながそれを誇りにしてほしいですね。

ただ、昔に比べると自然が開発されて、子どもたちの遊び場が減っているのはさみしい。少子高齢化が進む中で、小中学校の生徒数が減少しているほか、未だに特別養護老人ホームが町内に一つもないことも気がかりです。

時代の変化への対応は大変でしょうが、早く行革のメニューを住民に提示してほしいと感じます。行革の優先順位を明確にして、なるほどと納得のいく情報を提供していただければ、私たちの協力の仕方も見えてきます。とにかく、若い人達が住みついてくれるまちづくりを、いかに実現するか。難しいことですが、町の活性化はその課題への取り組みにかかっているのではないのでしょうか。



後藤正憲さん 鉄鋼業

私は生まれも育ちも朝日町です。これまで、いろいろ思い出はありますが、小学生の頃の伊勢湾台風では、小学校の校庭に流れてきたゴミが溜まって、ぐしゃぐしゃになった光景が鮮明に残っています。

また、消防団に関わっているので、火災現場にかけつけたこともありますが、東海豪雨のときには大変でした。東海地震が叫ばれるなかで、消防団としても地震に関する防災活動を今は積極的に進めています。そうした消防団の活動を通じて、たくさんの諸先輩方がボランティアとして懸命に努力してきたことを知ったのは、私にとって非常に大きかったです。それをきっかけにして、行政とボランティアの連携についても、考えるようになりました。

私が子どもの頃は、道路も舗装されておらず、東海道の松並木も残っていました。今は町並みもきれいになりましたし、高速道路が開通して非常に交通の便は良くなっていますね。その反面、山が削られるなど、自然が少なくなりつつあるのは、少しさみしい。

ただ、そうはいつても、朝日町にはまだまだ自然が多いし、地域の祭りなども残っています。朝日町は、田舎的な人と人の繋がりを大切にできる風を残しながら変化してきたといえるでしょう。そういう部分をこれからも大切に育てていけば、良いまちづくりにつながるのではないのでしょうか。人との触れ合いがあるという朝日町の最も良い部分を、今の子どもたちにも伝えていきたいし、行政には、それを生かしたまちづくりに取り組んでほしいと思います。



小向達也さん 浄泉坊住職

私が小学校(国民学校)に入学したのは昭和19年。ちょうど太平洋戦争まっただ中のときです。その頃、全国の小学校には奉安殿というものがあつた。当然、朝日小学校にもありました。奉安殿とは、天皇・皇后の写真を保管した神社のような建物で、生徒は登下校の際に敬礼して通つたものです。この奉安殿は昭和16年から終戦の昭和20年までの間だけ建てられていたもので、すでに当時のことを知っている方は町内でも非常に少なくなつてしまつています。

戦争中には朝日町にも爆撃があつて16名の方が亡くなつてしまつた。また、終戦前の昭和19年には東南海地震があり、私はこのとき初めて地震の怖さを知りました。この地震は戦争中ということもあつて、あまり報道されなかつたんです。

終戦間近、空襲が激しくなると、朝日町へ疎開してくる方がたくさんいました。そのせいで、すぐく学校がにぎやかになつたのを憶えています。

終戦後は食糧難の時代です。弁当を持たずに、水だけ飲んで午後5時の授業を受けていた子もあつました。しかし、当時は上級生と下級生が一緒になつて遊び、子どもたちは、みんな助け合いの精神があつました。今はそうした繋がりがなくなつてしまつたね。

伊勢湾台風も鮮明に記憶に残つてしまつています。私の家へ婦人会が集まつて約1カ月にわたつて炊き出しをしまつた。この伊勢湾台風後に、朝日町は教育・文化・産業など色々な面で急速に発展したように感じます。

子どもたちには、このような朝日町の歴史を伝えていかないとはいけません。親から子へ、子から孫へと伝えていくことが一番大切です。

私は朝日町に生まれ、育ち、朝日町で一生を過ごすことができるのは、本当に幸せだと思つています。